

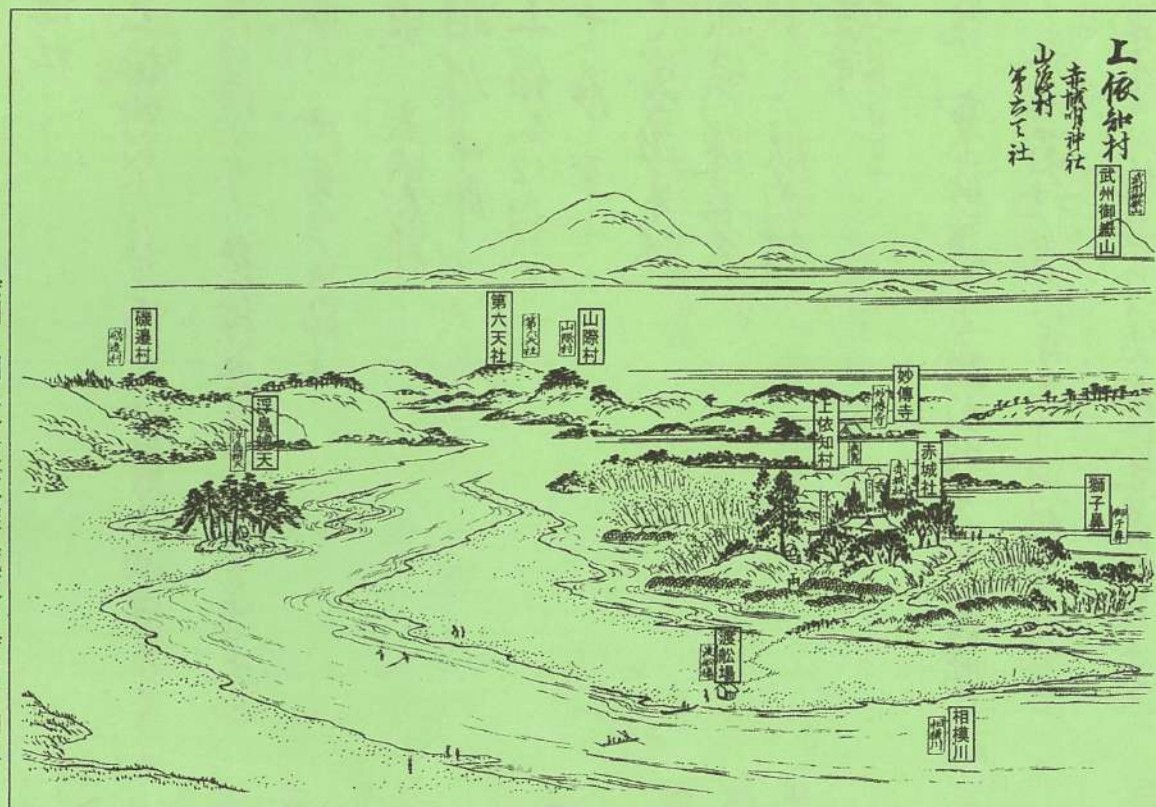
古文書を読もう

第31号

令和6年12月

古文書で知る郷土の歴史

古文書で知る郷土の歴史（十三） 『相中留恩記略』⑥



絵図…国立公文書館所蔵版の絵図を加工

『相中留恩記略』六回目は上依知村と山際村です。この絵図は相模川左岸の高台からの俯瞰図で、正面遠方に見えるのは大山です。無量光寺のある高台から当麻の宿を下ると、絵図に描かれる渡船場（当麻の渡）に至ります。現在は昭和橋が架けられています。これは津久井方面から大山に通じる大山道で、江戸時代には「大山詣」の人々は、この絵図に描かれているような景観を眺めて相模川を渡り、上依知村を通り抜けて大山に向かいました。

村の中央奥に妙傳寺が見えます。文永八年（一二七一）、日蓮は鎌倉で捕縛され佐渡へ配流される途次、本間六郎左衛門尉重連の邸内にある観音堂に逗留します。そこで日蓮が月に向かって経を誦すると堂前の梅の樹に星が下る奇瑞が顕れたのです。この本間屋敷の梅の樹の傍らに草堂が営まれ、後に妙傳寺になりました。このことから妙傳寺は星下り寺とも言われます（注①）。『新編相模国風土記稿』には続けて、「無量光寺の開祖一遍が同村に遊化に來た時、日蓮配流の事情を聞き、当所の観音堂に來て日蓮に拝謁した。是を縁として当寺と無量光寺は代々の住持が、今も便りを續けているという。」と書かれています（注②）。なんと、鎌倉新仏教の日蓮宗の開祖日蓮と時宗の開祖一遍が相まみえたというのです。二人はここで、一体どのような話をしたのでしょうか。

絵図中央に描かれる赤城社は現在の依知神社です。社の左側に描かれている銀杏の太木は樹齡約五百年で現存し、「かながわ名木百選」になっています。

注①中依知の蓮生寺、金田の妙純寺にもこの伝説がある。

注②当会編纂の『現代文 新編相模国風土記稿』から抜粋。

厚木市古文書解説会

あつぎ郷土博物館に収蔵されている古文書の解説に取り組んでいます。興味のある方は第2、第3、第4木曜日に活動していますのでお問い合わせください。

あつぎ郷土博物館 TEL 046-225-2515

古文書を読もう

第10巻3号通巻31号

発行日 令和6年12月26日

発行 厚木市

編集 あつぎ郷土博物館

厚木市古文書解読会

住所 〒243-0206

厚木市下川入一三六六―四

電話 ○四六―二二五―二五一五